

神戸女学院大学

人間科学部 心理・行動科学科

精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第1号

【初の試み】実習医療機関より、就職ガイダンスを開催いただきました。



今年度より4回生の精神保健福祉援助実習でお世話になるハートランドしぎさん(奈良県)の職員の方より、精神保健福祉士の実務や具体的な就職に関するお話を伺いました。当日は精神保健福祉士養成課程の4回生10名、3回生7名が参加しました。

精神保健福祉士が所属している部署をメインにご紹介いただきました。年々児童分野に関心を持つ学生が増えており、発達障害の治療とセラピーに特化した専門外来があることについては関心を寄せる姿勢が伺えました。



参加した4回生の感想

★医療機関への実習前に、精神科病院での精神保健福祉士の役割について貴重なお話を聴かせていただき、とても勉強になりました。各部門における精神保健福祉士の役割を細かく教えて頂き、イメージが膨らみました。

特に、精神科救急急性期病棟での役割として、3カ月以内の退院のために尽力されているということが印象に残りました。長期入院を減らすための努力として、長期入院患者の退院支援だけでなく、予防的な側面での退院支援が重要であるということに気づくことが出来ました。

★患者さんから対人関係についての相談を受け、解決策が導き出された時に、個別でSSTを行って、患者さんに一度予習してもらおうというお話がとても印象的であった。

これは、患者さんにとってとても有意義な時間となるだろうと感じた。また、就労支援において、根本に働くモチベーションがなければ続かないため、なぜ仕事をしたいのかの理由を決めてもらうことがとても大切である、ということも学ぶことができ、就労支援に携わる際に活かしたいと感じた。

★幅広い年齢層に対応しているというお話があり、興味を持ったので、実習に行く同級生からも実習の様子を聞きながら就職活動について考えていきたいと思います。

★就労支援を利用するまでの手続きでつまずいてしまう人が多いことや、デイケアで、利用者の方の趣味を聞いたりすることは、普段と違う環境でなるべく戸惑わないようにするための工夫の一つであることなど、実際に働いている精神保健福祉士の方のお話を聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。

★目ではわからない発達障害は子どもの頃に発達障害だとわかる人や大人になってからわかる人など様々な人がいるため、ライフステージに合わせた支援を教育機関やリハビリ機関との連携で行うことの重要性を知り、幅広い年代が相談しやすい窓口設置の必要性を感じた。

遠方にも関わらず、朝早くからご来校いただきました
高幣様、澤井様、古山様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

